

事務局だより

まったく理不尽な話

吉田 和雄

◆読者のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。東京はここ数日でようやく日射しに恵まれ梅が開花し、めっきり暖かくなりました。いつも風刺のきいた4コママンガを提供して下さっている神戸市在住の松田妙子さんから2月中旬、事務局に届いた便りを紹介します。「私は節電のため、夜12時まで暖房をつけないルールを作っていますので、この原稿も吐く息の白い部屋で、かじかむ手で書いています。私の家の近くからアメリカ軍の不発弾が見つかり、自衛隊が撤去するまで避難しなければならぬことになりました。戦争はまだ終わっていないんだなあ、と思われまます。それにしても寒い！次の『市民の意見』が出るのは4月はじめになるでしょうが、早く春が来てほしいです」。松田さん、春がきましたよ！

◆生活保護世帯の人は暖房代を月3千円加算されるのですが、私の知り合いの生活保護世帯の人には、「火事を防ぐ」名目で入れられた「オール電化」の単身アパートから出られなくて引きこもり生活をしている人や、暖房代を節約するために暖房を「使わない」人まです。私が介護に入っている重度障害者の人は、部屋ごとに電気代をとられているの

で、冬期加算では到底賄い切れない負担をしています。にもかかわらず、政府は8月から「物価が下がった」ことを理由に生活保護費を最大10%下げようとしています。水道・光熱費は10年前より値上がりしているにもかかわらず。まったく理不尽な話です。

電力会社は今、値上げをしようとしています。この値上げは原発再稼働や原発維持を見込んだもので、貧しい市民の暮らしを直撃するばかりでなく、原発存続のための値上げになります。まったく理不尽な話です。

◆事務所では昨年末から、紙で作られたオシャレなハトが天井を舞っています（左写真）。提供者は吉川勇一さん。この事務所が「吉川勇一事務所」の時代から吉川さんはヘンなものが好きで、使い途のわからない小物が部屋にいくつもあつたのですが、今度の空中を舞うハトはみなさんお気に入りのようです。わざわざ見に来るほどのモノではありませんが、お立ち寄りの際はご覧ください。



写真提供：吉川勇一

◆本年の意見広告運動も大詰めを迎えました。自民党安倍政権の復活で「国防軍」の創設、改憲手続条項の改訂から、改憲への道筋が見えてくる中で、私たちは「これまで通りの意見広告の訴え方でいいのか」と自らに問いかけ、何度も

カンカンガクガクの討論を重ねています。みなさまからはすでに賛同金をお届け頂いていますが、掲載実現のため、もうひと回り賛同の輪を広げ、5月3日の意見広告を成功させたいと思います。



写真提供：北原博子

◆3・11から2年目の今年、東京では3月9日、10日、11日、12日とそれぞれ主催者を違えつつ協力して集会、デモ、国会行動がおこなわれました。私たちは3月9日に明治公園でおこなわれた「つながろうフクシマ、さようなら原発大集会」に参加しました（右写真）。去年につづき神戸から会員の海老坂武さんも参加され、一緒に歩きました。福島原発周辺は2年経った今も何も変わらず、人が住める状態ではないのに、安倍政権は原発「再稼働」を明言。伊方、川内などの原発から再稼働が目論まれています。「まったく理不尽な話」をどうにかして止めたいものです。

（よしだ・かずお／事務局長）